

N P O 法人

子どもの虐待防止 ネットワーク・かがわ

ニューズレター No.24



みんなで作る差別と暴力のない世界 (VAV プログラム)

NPO 法人子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ 橋本美香

〔みんなで作る差別と暴力のない世界〕とは、ガールガイド・ガールスカウト世界連盟(WAGGGS)と UN WOMEN が協力して作った〔VOICES AGAINST VIOLENCE 略して VAV〕プログラムの日本語訳です。小学校1年生から25歳までを対象とし、自分の権利を知り、自分と仲間の権利を守るために声をあげる力をつけることを目的としています。小学校低学年、小学校高学年、中学生・高校生、18～25 歳の4つの年代について、それぞれ6つのステップが組みまっています。(①はじめよう、②考えよう、③理解しよう、④力になろう、⑤声をあげよう、⑥行動を起こそう)

小学校低学年向けアクティビティの一部を紹介します。〈考えよう:おもちゃ〉ジェンダーによる固定観念について考える、〈理解しよう:イヤだって言う〉不快と感じることに「イヤだ」という練習をする、〈力になろう:助けてくれる人〉誰にどのように助けを求めらるかを知る、〈声をあげよう:私たちの権利〉子どもの権利を理解する、〈行動を起こそう:キャンペーンをしよう〉地域社会の意識を高めるための簡単なキャンペーンアクティビティを考える。

昨年 10 月に子育て支援フェスティバルで当会とガールスカウトが共同しオレンジリボングッズのクラフトを行ったのはアクティビティの一例です。

差別と暴力に取り組むことは、深く根づいた考え方と向き合い、現状に疑問を投げかけることによって、反発・批判・不満にさらされたり、暴力を受けるリスクが高まったりなどの影響が生じるかもしれません。VAV プログラムでは、これらマイナスのリスクや安心・安全のための配慮について考え、実施するようになされています。

また、気付かなかつたり、忘れていたりした被害体験を思い出し、不安や恐怖などが生じる場合も考えられ、そのための配慮も必要です。例えば、いつでも休憩がとれる、他の活動を選択してもよい、その場に話したいことを聞いてくれる人が用意されている、相談機関のリストを渡す、などです。

VAV プログラム指導者研修を受けて、年齢に応じた教育が重要であること、実施にあたって安心・安全のために様々な配慮が必要であることを学びました。

調査報告

日本子ども虐待防止学会 第22回学術集會おおさか大会にて発表

香川型の妊娠期からの家庭訪問型子育て支援の展開を目指し、基礎的調査として妊娠中・子育て中のお母さんに調査した内容を『妊娠期や育児期の母親の家庭訪問型子育て支援に対するニーズと課題』として、以下のように発表しました。

【調査目的】

妊娠期からの家庭訪問型子育て支援を地域で展開するための基礎資料とすることを目的に、妊娠中や子育て中の母親を対象に「家庭訪問型子育て支援」に対するニーズを調査した。

【調査方法】

対象:妊婦・子育て中の母親で有効回答が得られた707名。

期間:2015年8月～2015年10月。

調査方法:医療施設および子育て支援センター等の責任者の承諾を得た後、対象者に無記名自記式質問紙調査票を配布した。

調査内容:年齢、妊娠の有無、子どもの人数、就業の有無、相談相手の有無、利用子育て支援サービス、妊娠期からの家庭訪問型子育て支援の希望の有無と希望支援内容等である。得られたデータは、統計学的に分析した。

倫理的配慮:香川県立保健医療大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

質問紙の投函を得て調査協力に同意したものとした。

【結果】

有効回答数707名(回収率36.8%・有効回答率96.1%)、平均年齢 32.8 ± 4.8 歳、妊娠中200名28.3%(初産婦75名・経産婦125名)、子育て中507名71.7%であった。

就業中21.8%、経済的不安あり36.4%、利用子育てサービスは「保育所の支援センター・子育て広場・市町保健センター」の順に多く、「サービスを知らない」が4.5%であった。

「家庭訪問型子育て支援を利用したい」は妊娠中22.0%・子育て中36.9%であった。

希望なしの理由では「身内や身近な人の協力がある・どんな人やどんな支援があるかわからない」があった。

支援希望内容は、初産婦に「一緒に情報を調べる」が多く、子育て中の妊婦に「子どもと遊ぶ・病院への付き添い」が多かった。

【考察】

初産婦や家庭で子育てをしている母親に相談相手や育児支援ニーズが多く、支援者と支援内容が見える情報発信が必要といえる。

- 参加保健師さんからの意見として、ボランティア組織としての成り立ちと運営、家庭訪問活動実施者(ホームビジター)の背景の質問とともに、素晴らしい活動なので是非行政にアピールして、行政と協働して活動の展開を図るよう、勇気づけられるコメントをいただいた。

ライフストーリーワーク(LSW)

ライフストーリーワークって何？今回全国大会で初めて耳にした言葉です。資料を見ていると保育士養成課程にぜひ取り入れて欲しいと書いてありました。保育士である私はますます興味が湧いてきました。誰が発表しているのかとみると、私がお会いしたいと思っていた才村真理先生です。

社会的養護を受けている子ども達(里親さんによって育てられた子、養護施設で育った子、乳児院で育った子など)が物心ついた時、私にはなぜ本当の親がいないのか？どうして本当の親と一緒に生活していないのか？など悩みだした時、子どもの気持ちに寄り添って納得のいくように事実を伝えられるような信頼できる大人が傍にいれば子ども達は、自分の生い立ちを整理でき、生みの親の事を知っても乗り越えて行け、自己肯定感を高める事が出来ます。その方法の1つがライフストーリーワークです。

保育士養成課程(短期大学)の中には、現在実際に取り入れている所は少ないようです。理由は幼稚園、保育所を目指して入学して来る学生達の殆どが「自分は幼稚園の先生になるので関係ない」と考えていたり、職員は「うちの学生はどうせ保育園の先生になるから必要ない」と考えている所が多いようです。しかし、現在の幼稚園・保育所領域でも社会的養護の問題に関わるような多様な課題を持つ家庭や子どもの増加が予想されます。その為に、保育士は生活面を通じライフストーリーワークの基礎を支える為に勉強する必要があると思われまます。それでもまだまだ養成学校で授業に取り入れるには壁は厚いと思われまますが自分も勉強しながら「ライフストーリーワーク」って凄く必要な事だよと事あるごとに声に出していきたいと思いました。(A)

『児童相談所における性的虐待等対応の実践と課題**-子どもから事実を聴くこと、福祉と司法の協働とは-**』

児童相談所(以下、児相)における面接の意義

- ①「児童福祉補が目指す子どもの安全確保、長期にわたる健全育成支援」という意味。これは、児童福祉が求める加害者からの保護、性暴力加害者の排除につながる。
- ②「刑事訴訟法が目指す犯罪事実の確定、犯罪者の処罰」これは、刑事捜査が求める犯罪者の検挙・処罰、更生のための手順へとつながる。

一昨年10月に厚生労働省、最高検察庁、警察庁から出された子どもに負担をかけない面接のあり方に係る通知は、現行法での新しい連携のあり方の模索です。このことに関して、一線を画してきた児相の福祉的調査と刑事捜査とが、整合性を求められることとなります。既に多機関連携を実施してきた各自治体での現状と課題の報告をうかがいました。

横浜:児相・検察・警察の協同面接をどの段階で決めるのか、どこが担うのか等スピード感に違いがある。

また、情報の共有や記録の保管場所等が課題となっている。

長野:組織対応力の向上へ向け、児相間職員派遣制度策定、「広域支援センター」設置の段階。

埼玉:H24年から児相に警察官を配置。検察・警察との意見交換会を実施している。児相が警察の事情聴取のバックヤードに入ることも実施。但し、協同面接は未実施。加害児への心理教育、TF-CBT(被害児の心ケア)の実施。性加害の予防教育も。

千葉:被害事実確認面接において検察・警察が参加する一方、刑事事案としての視点、福祉的対応の違いが埋められず、協同面接に関する合意文書がまとまらない状況。

横須賀:児相・検察・警察によるケースカンファレンスを実施。協同面接は未実施。

神奈川:数ケースで協同面接実施。○事件化の判断が早い。○聞き取りが効率的。●三者のスケジュール調整中に子どもが不安定に。●事件化が早く、子どもと弁護士の面会が間に合わない。⇔協同面接に当たり、児相としての立場の認識の統一が必要と提言。

まとめでは、菱川愛(東海大学)氏が「子どもは、暗示や誘導を受けやすい存在であり、大人こそが子どもに影響を与える一番の要因であることを意識しておくことが必要。一時保護の影響も考えられるので、侵襲的ではない関わりを探る必要がある。子どもへの定番の声掛けがある訳ではなく、ソーシャルワークの何が求められているかは経験からしか分からないもの」と述べられました。(T)

活動報告

ーグループワーク事業ー

★ ひだまり★

子育てに悩んでいる母親が安心して悩みを話せる場です。参加者が対等な立場で話し合い、悩みを共感しあうことで自助力を高め、自分の問題を自分で解決できるように支援しています。

- ・原則毎月第1土曜日 10時～11時30分
- ・参加費：母親・子ども 各100円

“ひだまり”

- ・年間利用者は、延 118 人 (大人 43 人、子ども 75 人) でした。



★ 楽っ子★

買い物に来られた親子を対象に、安心して買い物ができるように託児をしたり、親子で一緒に遊んだり、育児についての情報提供やお母さんの交流の場になっています。

- ・毎月第4水曜日 10時～12時
- ・参加費：無料
- ・場所：パワーシティ屋島

“楽っ子”

- ・年間利用者は、延べ 85 人 (大人 44 人、子ども 41 人) でした。

なお、楽っ子は平成 28 年度にて終了しました。

- ・平成 18～28 年度までの利用者は、大人 536 人 子ども 596 人でした。

妊娠期からの家庭訪問型子育て支援「マタニティー＆ベビーサポート」

- 妊婦や乳幼児のいる家庭に研修を受けた子育ての先輩(ホームビジター)がご自宅を訪問し、フレンドシップな関係でサポートしています。
- ご本人からのお申し込みで利用できます。
- 利用料 : 無料
- 支援回数: 1週間に1回2時間程度、4回ほど訪問します。

問い合わせ、申し込み **電話 080-2985-1556**

□ 平成28年度の活動の概要

- ・申込み 45件(その内、妊婦さんが11件)
- ・ニーズ (上位5番目までを紹介)
 - ①相談や話を聴いてほしい
 - ②子どもと一緒に遊んでほしい
 - ③子どもの予防接種や健診、母親の通院・妊婦健診へ同伴してほしい
 - ④一緒に公園や子育て支援センター・買い物等に行ってほしい
 - ⑤多子・多胎等で家事がはかどらない為支援してほしい



・**地域** 高松市、丸亀市、善通寺市、三豊市、観音寺市、宇多津町 に在住の方

★利用者の声を紹介します！

- ・一人で育児をしなければいけない状態から、救ってもらえた。
- ・手作りおもちゃで遊んでくれたり、とても和やかな雰囲気があって良かった。
- ・双子を含め3人の外出がままならなかったが、一緒に行ってもらい助かった。
- ・子どもとの関わり方が分からなかったが、見せてくれてよく分かった。
- ・妊婦健診の際同行してくれ子どもと遊んでくれたので、泣くことなく待てて親子共に助かった。

□ 産前支援をプラスした「産前産後支援モデル事業」にエントリー

今年度、ホームスタート・ジャパンの事業である「産前産後支援モデル事業」にエントリーし、妊婦1人の支援を報告しました。

□ 「多胎家庭を地域でサポート！ ～子育て支援者研修会～」を実施

日時:平成29年2月16日(木)9:15～11:45

会場:サンメッセ香川 中会議室 対象:子育て支援関係者

講師:名古屋学院大学 越智祐子氏 主催:一般社団法人日本多胎支援協会

参加者の声

他職種・他地域からの子育て支援関係者45人を迎え、講師のとても分かりやすい説明と楽しいグループワークの中で、沢山の貴重な意見が聞かれた。また支援者でもある当事者からは、傍目からは分からない多胎児家庭、特に母親の苦労や大変さ・理解の薄さを聞かされた。多胎の場合は殆どが出産前から入院するケースが多い為、その間に筋力が落ち、産後二人(多胎)の子どもを抱く事がとても大変であるといった事は、当事者に聞かないと分からない事であり、私達一人ひとりがもっと多胎児家庭の事を理解し、意識をもって関わっていく必要があることを改めて感じた研修であった。

—地域拠点型児童家庭相談事業 “子らっこ楽っ子” —

<高松市委託事業>

子らっこ楽っ子は、保護者と子どもと一緒に遊び、時々離れて過ごす場所です。ここでは、参加者同士の情報交換や子育てについての相談、穏やかに子どもとかわる方法を紹介する子育て講座、家庭訪問による相談などを行っています。

利用者は、延べ 557 人（保護者：274 人、子ども：283 人）でした。

内訳：①親子遊び 212 組 ②子育て講座 62 人 ③子育て何でも相談 68 件
④家庭訪問相談 10 世帯

* スタッフの感想

・単世代交流の母親にとっては経験者である支援者が、否定せず今ある現状を受け入れる事だと痛感しました。母親たちは自分で答えを持っていますが感情が先に立ち気持ちを整理できていない為不安要素が強くなっているのではないかと思います。その不安や焦りは子ども達に伝わり、発達が遅滞したりすることもあるのかもしれませんが。スタッフとして「ゆっくりと子育てしていいよ」と言うメッセージを伝えながら子どもと母親の気持ちに寄り添った活動でありたいと願っています。

* 利用者の声

- ・初めは、人見知り、場所見知りが酷かったのですが子らっこ楽っ子に通う事で見違うように人懐っこくなり友達とも遊べるようになりました。私自身も悩みを沢山聞いてもらえて気持ちが楽になり本当に感謝しています。
- ・1歳過ぎて他の子たちと遊んでいるのを見てみたいと言う事から参加してみました。他の子どもと楽しく遊んでいるのを見て、安心しました。分からない事を相談し、気分転換できるから助かりました。
- ・子ども達がのびのびと遊んでいる間に、親同士で子育てに関するお話を出来るので情報交換も出来るし気分転換にもなるのでとても助かっています。
- ・なかなか気軽に相談したり参加者同士でゆっくり過ごせる場所が見つからなかったのですが、こちらで相談に乗ってもらえて心強かったです。
- ・地元を離れて知り合いも土地勘もない私に、いろんな事を教えて頂き、子どもとも沢山遊んでもらって知り合いもできて親子でとても良い経験をさせてもらいました。



他団体紹介

一般社団法人 香川県助産師会の活動紹介

香川県助産師会では、女性が安心して子どもを産み育てられるよう様々な活動に取り組んでいます。今回はその活動をご紹介します。ぜひ皆さんの周囲の方に、ご紹介ください。

1) 妊娠・出産のなやみ あんしん ホットライン(妊娠・出産サポート事業 香川県)

妊娠・出産・子育てなどの疑問や心配事について、担当の助産師が相談をお受けします。匿名で相談可能。秘密は厳守します。お気軽にご相談ください。

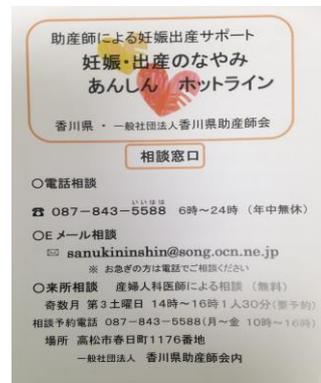
① 電話相談 087-843-5588(6時~24時 年中無休)

② メール相談 sanukininshin@song.ocn.ne.jp

※お急ぎの方は電話でご相談ください

③ 来所相談 産婦人科医師による相談(無料)

奇数月 第3土曜日 14時~16時 1人30分(要予約)



2) 助産師のほっと相談室 ※県内10か所で相談室を開催

育児相談・母乳相談・母親同士の交流 妊婦・就園前までのお子さんとお母さん. 無料 予約不要

★場所・日時については香川県助産師会 HP をご覧ください

★お問い合わせ先 すこやか助産師センター

087-844-4131(平日10時~16時)

3) すこやか助産師センター活動(各種教室)

(一社)香川県助産師会 料金:1000円~1500円

★お問い合わせ・申し込み先 087-844-4131(平日10時~16時)

・パパママ教室 第2日曜日 9時30分~12時

・ベビーマッサージ 第1・3水曜日 13時~14時30分

・マタニティヨーガ 毎週水曜日 10~12時

・産後ヨーガ(産後2か月~1年)赤ちゃんと一緒に 第2・4水曜日 13時~14時30分



保健師のたまご達の力からネットワークづくり

平成29年2月23日 香川県立保健医療大学(以下、大学)主催の「すこやかコミュニティ 2017」~つなげてひろがる支援の輪~に、昨年度に引き続き参加しました。大学では、将来保健師を目指す学生さんの支援能力を強化するために牟礼町内をフィールドとして実習を展開しています。その成果を住民や子育て支援関係者と共有し、「切れ目のない子育て支援のあり方」について意見交換をすることが目的です。平成28年度は、当会の活動の一つである子育て中のご家庭をお助けするプロジェクト「子らっこ楽っ子(高松市の委託事業)」について、牟礼町内における子育て支援の社会資源の一つとして学生さんからインタビューを受けていました。今回、その報告と香川県健康福祉部子育て支援課の川瀬課長補佐さんから「これからの母子保健」についての講演を踏まえ、参加者間で「牟礼町内における子どもを育む地域づくり」について意見交換をしました。その場での意見は、学生さんが整理し、発表・参加者間の共有が行われました。

この会の魅力は、学生さんをとおして牟礼町内で活動している支援者と顔つなぎができることです。ネットワークは、顔の見える関係になることが一番だと思っています。

掲示板

《冊子の紹介》

※ 事務所にて貸出OK! (なお、会員・賛助会員が貸出対象です)

- 「子どもの虐待とネグレクト VOL18No.1」 日本子ども虐待防止学会
- 「子どもの虐待とネグレクト VOL18No.2」 日本子ども虐待防止学会
- 「子どもの虐待とネグレクト VOL18No.3」 日本子ども虐待防止学会
- (寄贈)「妊娠期からの切れ目のない支援」を / 「一歩踏み込む支援」を
一般社団法人日本多胎支援協会

《活動への支援》

◇ 平成28年度ご支援をいただいた方々です。

国際ゾンタ高松ゾンタクラブさま 富士ゼロックス株式会社端数クラブさま
富士ゼロックス株式会社さま オレンジリボンバッジを利用された20名の方々
ほか、7名のみなさま
ご支援有難うございました。紙面をお借りし、心から感謝申し上げます。

《会員募集》

会員及び賛助会員を随時募集しております。ホームページからでも可能です。

- ★正会員・・・一緒に活動をしていただける方 (年会費¥4,800)
- ★賛助会員・・・財政面で支援をしていただける方 (年会費 一口¥5,000)
- ★団体会員・・・ 同上

お問合せは、下記までお願いします。

《寄付のお願い》

当会の活動は会員の会費のみが定期収入となっており、事業の運営は助成金や寄付金収入に頼らざるを得ません。子どもの虐待を防止するために息の長い地道な活動が期待される中での財政基盤の弱さはいつも心配の種となっております。皆様の温かいご支援を宜しくお願い致します。

<振込先> 郵便振替 01630-5-2437

<加入者名> (特) 子どもの虐待防止ネットワークかがわ

特定非営利活動法人

子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ ニューズレターNo.24 2017年3月発行

事務所 TEL: 087-888-0758 FAX: 087-888-1070

毎週 月曜日～金曜日 (午前10時～午後5時) ※留守の場合もあります

ホームページ: <http://kcapn.sakura.ne.jp> Eメールアドレス: kcapn9999@siren.ocn.ne.jp